

獣医療をめぐる情勢と日本獣医師会の役割

伏見啓二[†] (公社)日本獣医師会 専務理事)



1 はじめに

日本獣医師会は、獣医師道の高揚、獣医事の向上、獣医学術の振興・普及及び獣医師人材の育成を図ることにより、動物に関する保健衛生の向上、動物の福祉及び愛護の増進並びに自然環境の保全に寄与し、もって人と動物が共存する豊かで健全な社会の形成に貢献することを目的としている。

このような重要な役割を担う日本獣医師会の目的を簡単に言い換えてはいけないのかもしれないが、当会は獣医師に関わることは何でも行い、各分野に役に立つことを精力的に行うことにより、最終的には人と動物が同時に生存・存在するために役立つ豊かで健康的な社会を造ることに尽力することであると考える。この目的を達成するためには、55の地方会のご協力がなければできないものであり、日本獣医師会事務局としても、日ごろから活動内容等を情報としてお伝えするとともに、何をさせていただきたいのか、また地方会の皆様は何を求めているのか、あらゆるツールを使い情報交換・意見交換等を行う必要がある。

本稿では、獣医療あるいは獣医師をめぐる情勢を説明するとともに、抱える問題や取り組むべき課題について個々に整理して、対応策や考え方を紹介し、日本獣医師会としての役割を示せればと思う。

2 獣医師の現状と課題

獣医師の活動分野は広く、産業動物分野(家畜)、小動物診療分野(ペット)、人の公衆衛生分野と多岐にわたる。最新のデータでは、わが国には約4万人の獣医師資格を有する人がおり、9割に当たる3万6千人の活動獣医師のうち、11%が産業動物診療、41%が小動物診療で活躍している。さらに、農林水産分野と公衆衛生分野を加えた公務員獣医師は23%、大学の教員、動物用・人体用医薬品の開発、海外技術協力などに従事する人は15%となっている(図1)。男女比率をみると、4割弱

が女性獣医師であり、年代が若いほど女性の比率が高く、20代では5割を超えている。また、過去10年間で、小動物診療獣医師の割合は増加傾向で推移し、産業動物獣医師の割合は横ばいで推移している。

このように、毎年1千人以上の獣医師国家試験の合格者が出る中で、近年の新卒獣医師の約45%が小動物診療に就職し、小動物診療業者は40%程度となっている(図2)。産業動物獣医師は地域による偏在があり不足していると言われる中で、社会から獣医師に求められる職域と就業の希望先には乖離が出ていると言わざるを得ない。

このため、各方面の人々に獣医師は社会の中で重要な役割を果たしていることに加え、活動分野が広いことを改めて認識してもらい、特に獣医学生にはそれぞれの分野に魅力を感じてもらい、大学教育においても職業選択の可能性を広げる取組を行ってほしいと思うのは私だけではない。

3 獣医療をめぐる課題等

(1) 薬剤耐性(AMR)対策

薬剤耐性菌は、抗菌剤の使い過ぎなど不適切な使用により増加し、人や動物細菌性感染症の治療を困難にすることは知られている。薬剤耐性菌による感染症が世界各国で増加しており、人や動物の医療に悪影響を及ぼすことが大きな問題となっている。このため、薬剤耐性は国際的な最重要課題であり、わが国でも薬剤耐性対策行動計画(アクションプラン)を策定し、AMRに起因する感染症による疾病負荷のない世界の実現を目指し、AMRの発生をできる限り抑えるとともに、薬剤耐性微生物による感染症のまん延を防止するための具体的な取組がまとめられ、実行に移されている(図3、図4)。

すでにAMR対策に取り組まれている先生方もいらっしゃるが、畜産分野での動向調査や監視は進んでいるものの、全体としてはまだ十分なものではなく、日本獣医師会においても、政府のアクションプランをサポートする視点で活動していかなければならない。また、会員構成獣医師の先生方の協力を得ながら、具体的には小動物

[†] 連絡責任者：伏見啓二 (公社)日本獣医師会)

〒107-0062 港区南青山1-1-1 新青山ビル西館23階

☎ 03-3475-1601 FAX 03-3475-1604

E-mail: fushimi@nichiju.or.jp

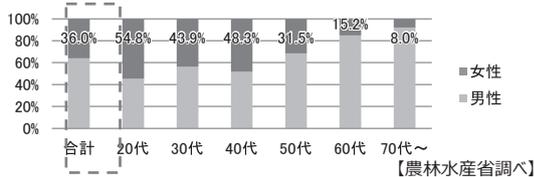
- ・ 獣医師の活動分野は広く、小動物診療分野（ペット）、産業動物分野（家畜）、人の公衆衛生分野と多岐にわたる。
- ・ 産業動物分野には①産業動物の診療獣医師と②農林水産分野の公務員獣医師が存在。

○ 分野別獣医師の数

(単位：人)

		令和4年	割合 (%)
活動 獣 医 師	産業動物診療	4,460	11.0
	公 農林水産分野	3,311	8.2
	務 公衆衛生分野	5,378	13.3
	員 その他	456	1.1
	小動物診療	16,541	40.9
	その他の分野	5,955	14.7
	小 計	36,101	89.2
獣医事に従事しない者 (無職含む)		4,354	10.8
合 計		40,455	100

○ 参考) 年代別男女比



① 産業動物獣医師 (約 2 割)

1) 産業動物診療獣医師
家畜の診療に従事

2) 農林水産分野公務員獣医師
公務員として家畜伝染病の予防やまん延防止に従事

② 公衆衛生分野公務員獣医師
公務員としてと畜場の食肉検査等に従事

③ その他分野の公務員獣医師
公務員として動物の愛護・管理等に従事

④ 小動物診療
犬、猫等のペットの診療に従事
参考) 愛玩動物看護師 20,648人 (R6.4.1時点)

⑤ その他の分野
大学の教員、動物用・人体用医薬品の開発、海外技術協力などに従事

(出典：農林水産省)

図1 獣医師の活動分野

分野における抗菌薬使用量データの収集、診療獣医師とのつながりを活かした飼い主さんへの慎重使用を指導・教育していく必要がある。

(2) 産業動物診療獣医師の育成・確保等

畜産物の安全性確保、安定供給のためには、産業動物診療獣医師の果たす役割は重要である。家畜の頭数が横ばいか微減傾向で、農家戸数は減少し大規模化が進んでいるのが現状である。畜産現場では、一般診療だけではなく生産獣医療や飼養衛生管理指導など獣医療へのニーズも変化している。

このため、まず獣医学生等の就業を誘導する支援として、農林水産省は産業動物診療獣医師を志す獣医学生への修学資金、産業動物診療や家畜衛生行政についての臨床実習等を実施している。地方会等においても地域で獣医師に興味を持つ中学高校生や保護者の方にこれらの情報を提供することは有効だと考える。また、獣医師の技術向上などへの支援として、本会が農林水産省の補助を受けて実施している、産業動物分野における管理獣医師育成のための長期研修等、現場で必要とされる知識・技術向上のための卒後研修等があるので、活用をお願いしたい。

家畜の診療では、離島等の地理的要因により、獣医師

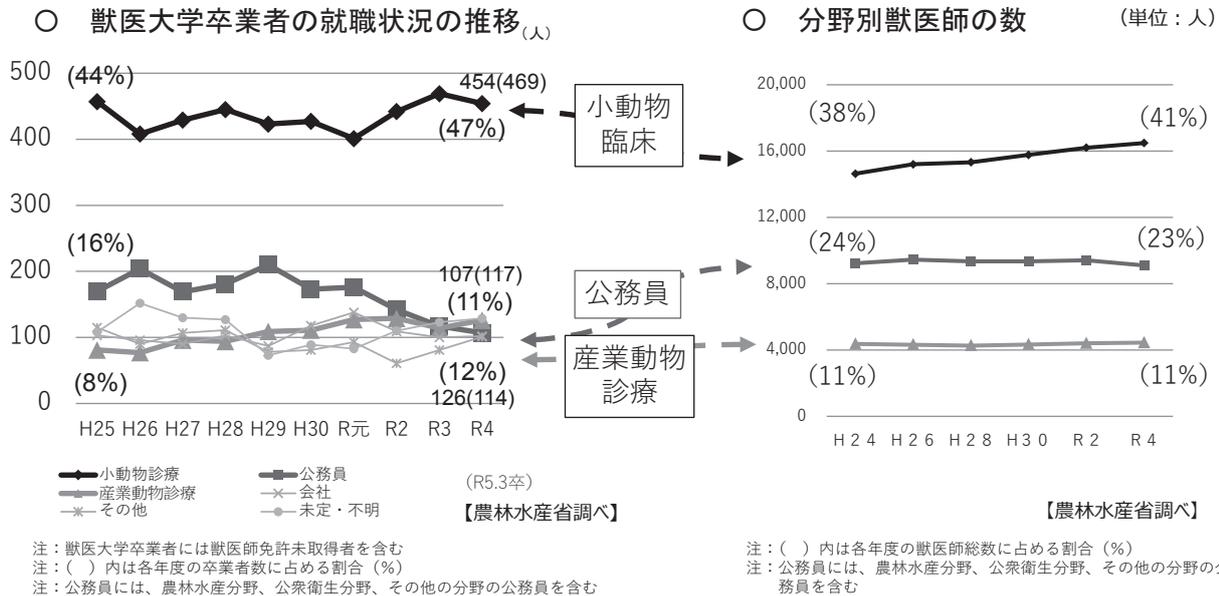
の頻繁な診療が困難な地域が存在すること、家畜診療所の統合等による往診距離の長距離化等を原因として、診療効率の低い地域が発生していることから、農林水産省では、家畜の遠隔診療に関する考え方の発出やモデル事業の支援を実施している。日本獣医師会においても事業等に協力しているので、産業動物獣医療の効率化と技術継承のためにも事業等を上手に活用いただければ幸いである。

(3) 小動物診療

獣医師の現状の中でも、小動物診療獣医師（小動物臨床分野）は増加傾向で推移していると述べたが、犬猫の平均寿命の延長や、動物や飼養者の高齢化に伴いニーズが変化している。このニーズに対応していく必要があると考えるが、この点に関しては、当会の会員の多くの先生方が対応されているので、私が意見を述べるのは恐れ多いと思っている。

あえて申し上げれば、平成27年に日本獣医師会雑誌第68巻第10号の論説で村中志朗副会長（当時）が提案された高齢者動物飼育支援システムとしての「動物介在地域包括ケアシステム」の構築が必要ではないかと考える。個人的にはこのシステムをうまく稼働させるためには、地域の中核としての「かかりつけ動物病院」の存

- ・ 犬猫の頭数が減少が横ばいという傾向の中、近年、新卒獣医師は45%程度が小動物診療に就職。一方で近年の小動物診療就業者は40%程度。社会から獣医師に求められる職域と就業の希望先には乖離がある。
- ⇒ 農林水産省では、産業動物獣医師を志す獣医学生への修学資金や産業動物分野を知る機会となる臨床実習等の実施を支援している。



農林水産省による獣医学生等の就業を誘導する支援

- 産業動物獣医師への就業を志す、獣医学生等に修学資金を給付する地域への支援
- 獣医学生に対する産業動物診療や家畜衛生行政についての臨床実習等への支援

図2 獣医師の推移 (就職動向)

(出典：農林水産省)

在は不可欠であるが、一般診療に加えて何をしなければいけないかを具体的に示さなければいけない。また、いろいろなご意見等をお持ちの先生方がいらっしゃると思うので、お考えをお聞きした上で、今後議論してまとめていく必要がある。

(4) 認定・専門獣医師制度

令和3年9月、各方面の関係者のご理解を得て、日本獣医師会内に「認定・専門獣医師協議会」を設置し、認定・専門獣医師の認定分野の設定、専門性認定団体の認定要件の評価・認証、認定・専門獣医師の登録・管理・公表に係る事業を実施している。その進捗状況等を説明する。

認証業務を行う「認定・専門獣医師協議会」は、令和6年7月24日に農林水産省（農林水産大臣）から認定要件確認機関としての指定を受けた。今後、認証に当たっては、専門性認定要件を満たした団体から「認定・専門獣医師協議会」に評価申請があった場合に、改めて評価し認証していくこととなる。認証された認定・専門獣医師は、「認定・専門獣医師協議会」に登録され、氏名と資格名が外部に公表される。現在、認定・専門獣医師認定団体は7団体15資格になっている。

一方、農場管理認定獣医師については、「農場管理認

定獣医師」研修プログラムを受講しており、5年間以上の農場管理獣医師に係る業務経験を有するなど資格認定基準を満たす獣医師が認定試験を受けられるように、スケジュールに沿って急いで準備している。

日本獣医師会としては、鋭意情報発信を行い、問い合わせ対応をまいりますので、よろしくお願いいたします。

(5) ワンヘルスの推進

ワンヘルスは、動物と人の共生社会づくり、生物多様性や環境の保全などによって、地球や社会の持続的な発展を目指すことである。ワンヘルス手法は、人、動物、環境の健康を一体的に、持続可能でバランスを取った対応を進めるという手法であり、関係者が連携・協力してワンヘルスを実践していかなければならない。

藏内会長が世界獣医師会次期会長選挙に立候補した際に公約した政策のキャッチフレーズは、「ワンヘルスを通じてより健康で持続可能な世界を築く」であり、ワンヘルスの範囲を、人畜共通感染症と薬剤耐性を超えて、健康で持続可能な人間社会と環境を創造するものへと拡大することなどを掲げました。この公約を通じて、ワンヘルスの枠組みの中で重要な役割を果たしている獣医師の社会的地位と認識を向上させることを目指している。

日本獣医師会のワンヘルス検討推進委員会では、令和

薬剤耐性対策行動計画(アクションプラン)2023-2027

- AMRIに起因する感染症による疾病負荷のない世界の実現を目指し、**AMRの発生をできる限り抑え**るとともに、**薬剤耐性微生物による感染症のまん延を防止**するための対策をまとめたもの。
- 従来の取組及び国際的動向を踏まえ、2023年4月に改定。
- **6分野(①普及啓発・教育、②動向調査・監視、③感染予防・管理、④抗微生物剤の適正使用、⑤研究開発・創薬、⑥国際協力)の目標に沿って、具体的な取組を記載するとともに、計画全体を通しての成果指標(数値目標)を設定。**

微生物の薬剤耐性率

	指標	2020年			2027年(目標値)		
		牛	豚	鶏	新牛	新豚	新鶏
関動 し物 てに	大腸菌のテトラサイクリン耐性率	19.8%	62.4%	52.9%	20%以下	50%以下	45%以下
	大腸菌の第3世代セファロスポリン耐性率	0.0%	0.0%	4.1%	1%以下	1%以下	5%以下
	大腸菌のフルオロキノロン耐性率	0.4%	2.2%	18.2%	1%以下	2%以下	15%以下

抗微生物剤の使用量

	指標	2020年	2027年(目標値) (対2020年比)
		畜産分野の動物用抗菌剤の全使用量 新	626.8 t
関動 し物 てに	畜産分野の第二次選択薬(※)の全使用量 新 ※第3世代セファロスポリン、15員環マクロライド(ツラスロマイシン、ガミスロマイシン)、フルオロキノロン、コリスチン	26.7 t	27 t以下に抑える

新 新たに設定した成果指標

(出典：農林水産省)

図3 薬剤耐性対策行動計画(アクションプランに基づく対策強化)―農林水産分野―

5年度から5年間のロードマップを作り、推進している。5年度にはワンヘルス推進の認識と理解を深める取り組みを行い、6年度は各都道府県の獣医師会と自治体との会合を設定し連携を深める活動をしていただいている。ワンヘルスに関する理解を深め、より良い社会を造るための活動を関係者みんなで進めていきましょう。

(6) 災害対策

近年、地震や集中豪雨等の自然災害が多発している。この備えとして、平時から危機管理体制を構築し、有事の際に迅速かつ適正に被災動物の救護活動等の社会的要請に応える体制を構築しておく必要がある。

日本獣医師会では、令和5年12月の理事会で「日本獣医師会危機管理室設置要綱」が承認され、平時より危機管理体制を構築し、有事の際には円滑かつ迅速に社会の要請に応えるための危機管理室が設置された。これにより、本年1月に発生した能登半島地震の対応が迅速に行えたが、有事に備えて即時対応可能な専門家の派遣、支援要員の確保等の課題に対応するための体制等を今後も充実していかなければならない。

なお、能登半島地震の際に、災害獣医療支援チーム(VMAT)を設置している地方会の一部では、日本獣医師会等から派遣要請がなされないことに不満が寄せられ

たが、被災現地の動物救護活動は可能な限り被災獣医師会の会員獣医師等で対応することが、被災後の復旧対応の観点からも望ましく、他県からのVMAT等の派遣は、現地対策本部の要請を原則とすることを周知していく必要がある。

(7) 獣医師会組織の基盤強化

獣医師会組織の基盤強化については、鳥海 弘 日本獣医師会副会長が日本獣医師会雑誌第77巻第7号の論説の中で、地方獣医師会の取組を上げて説明されている。よく整理されていて共感できる部分がたくさんあるので、ぜひ読んでいただきたい。

その中で、特に感じたことは、女性獣医師の活動の場を増やし、獣医師会の会員にもなっていただくための活動を広げなければいけないと思う。

また、浅知恵かもしれないが、獣医学生に会員資格を与え、卒業後も会員を続けてもらえるように柔軟な仕組みを導入できないかと思う。なお、一時期会員数の減少に悩みながらも会員数を回復させたアメリカ獣医師会の取組について問い合わせしているところであり、わが国でも取り組める事項があれば、大いに参考にしたいと思う。

普及啓発・教育（目標1）

- ・情報提供基盤（ウェブサイト）の運営、ソーシャル・ネットワーキング。サービス（SNS）やメディアを通じた情報発信
- ・薬剤耐性（AMR）に関する意識・態度・行動に関する定期調査の実施
- ・家畜防疫員、臨床獣医師を対象とした講習会・研修会の実施、充実

（新 新規の取組）
（強 強化する取組）

動向調査・監視（目標2）

- ・畜産分野に加え、水産分野及び愛玩動物分野の薬剤耐性動向調査の充実 強
- ・収集した菌株について全ゲノム解析を実施し、遺伝子情報を引き続き継続 強
- ・畜産分野の動物用抗菌剤の農場ごとの使用量を把握するための体制確立 新

感染予防・管理（目標3）

- ・家畜用、養殖水産動物用及び愛玩動物用のワクチンや免疫賦活剤等の開発・実用化の推進
- ・養殖管理における優良事例を都道府県に対して共有するとともに、養殖水産動物用の動物用抗菌剤を使用する際の魚類防疫員等による養殖衛生管理・水産医薬品の適正指導体制の強化 強

抗微生物剤の適正使用（目標4）

- ・食品安全委員会によるリスク評価結果を踏まえた、リスク管理措置策定指針に基づくリスク管理措置の策定及び適確な実施（承認・指定の取消し、一時使用禁止、使用できる家畜の範囲や期間の縮小、動向調査の強化等） 強
- ・獣医師・生産者等に対する一層の遵守・指導の徹底及び獣医師、生産者、愛玩動物の飼い主等向け普及・啓発ツール（パンフレット、リーフレット等）の内容の充実 強

研究開発・創薬（目標5）

- ・適切な動物用抗菌性物質の使用を確保するため、迅速かつ的確な診断手法の開発のための調査研究の実施 強

国際協力（目標6）

- ・国際連合食糧農業機関（FAO）及び国際獣疫事務局（WOAH）の薬剤耐性（AMR）に対する取組への支援

（出典：農林水産省）

図4 薬剤耐性対策行動計画（2023-2027）での主な新規・強化する取組（農林水産分野抜粋）

(8) 愛玩動物看護師

令和6年3月に報告された「新たな国家資格としての愛玩動物看護師のあり方に関する検討報告書（中間とりまとめ）」（獣医事審議会免許部会・中央環境審議会動物愛護部会愛玩動物看護師小委員会（合同委員会））の中に、「令和5年4月に新たな国家資格者である愛玩動物看護師が愛玩動物診療現場で業務を開始し、これまで獣医師のみの獣医療現場が大きく変化していくこととなる」。また、「今後、愛玩動物看護師と獣医師との間でタスク・シェアが進めば、獣医師による専門的で高度な獣医療が提供されていくことが期待される一方で、獣医療の高度化に伴う業務の複雑化と増大による獣医療現場の疲弊が懸念されている。」と書かれている。

この報告書には、チーム獣医療環境の構築が重要であると書かれており、「愛玩動物やその飼養者に寄り添った獣医療の提供という指向のなかで、獣医師よりも愛玩動物や飼養者に密に接する愛玩動物看護師の大きなものになっている。愛玩動物看護師の体制充実や、愛玩動物看護師の実習や研修の実施による技能向上、獣医師と愛玩動物看護師との連携強化等、良質なチーム獣医療環境を整備することが必要になる。」との報告は今後の課題である。日本獣医師会としても、どのようなチーム獣

医療環境を構築していくべきか考えていかなければいけないと思うので、実際の事例やご意見等をいただきたい。

4 おわりに

社会情勢が予断を許さない状況の中、獣医師、獣医療を取り巻く環境も変化してきている。人により感じ方の違いはあれ、獣医師、獣医師会に対する期待は大きくなっている。われわれの果たす役割として、時代のニーズに対応し、最適でなくても優良な解を見つけていかなければならない。

今回、執筆の機会をいただいたが、各課題を挙げて、対応の方向性や考えを示してみた。まだまだ私自身勉強すべきことが多く、言いたいことが不十分で伝わらない点もあるかもしれない。冒頭でも書いたが、今後、日本獣医師会の会員構成獣医師の皆様からだけでなく、幅広く意見等をうかがいたいが、まずは会員からの意見等をもとに、優先順位をつけて着実に対応していきたいと思う。皆様からのご意見、ご指導をお願いします。

最後に一言、皆さんとともに、獣医師、獣医師会及び関係者の社会的な地位を向上させ、信頼を高めていきたいと思います。